

平成24年度 学内教育GPプログラム事業経費計画書（継続型）

<p>事業名称</p>	<p>国際的に通用する生命情報学を使いこなせる女性人材の育成 (平成21年度終了事業「女性リーダー育成プログラム(生命情報学を使いこなせる女性人材の育成)」の継続、および平成22年度終了事業「国際化加速プログラム」の継続)</p>
<p>取組代表者名 担当者名</p>	<p>代表者：由良 敬 担当者：松浦悦子、小川温子、相川京子、近藤るみ、諏訪牧子(客員)、油谷幸代(客員)</p>
<p>事業内容</p>	<p>本事業は、平成17年度「魅力ある大学院教育イニシアティブ(理工農系)」(平成18年度終了)と平成19年度「女性リーダー育成プログラム」(平成21年度)および平成20年度「国際化加速プログラム」(平成22年度終了)を融合し、大学院における生命情報学の教育を英語による講義実習も含めて継続する事業である。平成23年度現在は規模を縮小し、自助努力で続けている(http://cib.cf.ocha.ac.jp/INFUKU/)。</p> <p>生命情報学は、ライフサイエンス分野に従事する研究者や技術者には不可欠な素養となっている。研究所をはじめ創薬企業や食品企業の研究現場では、日々ゲノム配列データやプロテオームデータが産出されており、これらのデータから有益な情報を抽出できる即戦力が求められている。そこで、本学大学院ライフサイエンス専攻において、学生の生命情報解析技術の習得をめざして、平成17年度より、「総合生命科学」「生命情報学」「生命情報学演習」「予測生物学」(いずれも大学院共通科目)を大学院副専攻として開講している。</p> <p>さらにライフサイエンス産業分野を含む多くの企業活動および研究活動が国際化する中で、少なくとも英語によるコミュニケーションが、各人の専門分野において必須となっている。英語による理系コミュニケーションを可能とするために、英語による専門分野のセミナーと「予測生物学」等の講義の一部を英語で行うことをすすめてきた。</p> <p>本申請では、上記事項を平成24年度以降も力強く継続する。具体的には、(1)「総合生命科学」「生命情報学」「生命情報学演習」「予測生物学」と、(2)生命情報学に関するセミナーを、大学院副専攻として英語または日本語で実施する。</p> <p>生命情報学は、さまざまな生命現象を数理的に理解することをめざす学問である。本事業の実施によって、ライフサイエンスの学生は、数理的解析力の習得ができる。また理学専攻の学生は、すでに習得している数理的解析力が、さまざまな生命現象の解明に利用できることを理解する。さらにライフサイエンス分野の英語の鍛錬を続けてもらう。これらのこのことは、各専攻の学生のキャリアプラン拡大を意味し、理系大学院生の出口戦略にも貢献する。</p> <p>実施する講義において、国内外の研究教育者をゲスト講師として招へいし、オムニバス形式で講義または実習をお願いする。実習では、過去のプログラムで整備したコンピュータを利用し、受講各学生に生命情報解析を行ってもらう。このコンピュータ(パソコンなど)の整備のため、および講義群の説明用ホームページ(http://cib.cf.ocha.ac.jp/INFUKU/)の作成、受講生の相談役としてアカデミック・アシスタントを配置する。</p>

事業期間終了後の計画	平成24年度に本申請の支援を受けることで、平成23年度に縮小して継続していた事業を、可能な限りもとの規模に復元し、平成25年度以降の新しい予算獲得（他のグループと合流しての予算獲得も考える）の基盤固めをする。支援終了時に新たな予算が獲得できなかった場合でも、少なくとも平成23年度の実施規模程度は、自助努力で継続する。
------------	---